

南牧村小中学校建設検討委員会 保護者説明会 発言録

日時 平成29年11月10日(金曜日)午後1時30分開会

場所 中央公民館

会議日程

- 1 開会
- 2 会長あいさつ
- 3 事務局説明
- 4 質疑・意見
- 5 その他
- 6 閉会

会議出席委員

嶋崎 稔夫 井出 松久 新海 昇 高見澤 俊彦 高見澤 正洋 井出 邦彦
高見澤 みち子 高見澤 ふみ子 新海 一禎 松山 幸代 湯浅 麗 江川 尚友
宮下 博満 湯浅 夏美 高見澤 臣美 板山 笑子 井出 泉 林 崇介 渡邊 壽美
以上19名

欠席28名 菊池今朝造 片桐 勝則 新海 文人 矢野 勝彦 水澤 良光 武井 晃
井出 昭彦 井出 将光 薩田 美穂 高見澤 眞 高見澤 美夏 上村 和加子
今井 澄江 輿水 昌代 天川 千保香 岡田 加佳 井出 正吉 新海 勝則
菊池 武元 新海 秀幸 坪井 則男 渡邊 忠一郎 井出 永一 菊池 俊志 輿石 剛
高見澤 俊彰 嶋崎 一尚 井出 實

事務局職員出席者

総務課 なし

教育委員会 教育長 井出 英夫 教育次長 井出 浩美 学校教育係長 井出一生
今井 征弥

保護者出席者数

南小区 14名

北小区 9名 計23名

開会 午後1時30分

◎開会

林崇介副会長 開会を宣言する

◎会長あいさつ

渡邊壽美会長 あいさつ

◎事務局説明

事務局井出次長 資料説明

◎質問・意見

保護者吉澤氏 是非南小に建設されたい。理由は、現在でもスクールバスに20分～25分、下校時は30分から35分乗っている。中学校になれば1時間近く乗ると予想される。南北に長い村の真ん中の南小がよいと思う。

保護者矢野氏 小中一貫教育のための教育課程は、まだ一切整っていないと聞いた。整える前に小中一貫教育を始めてしまって、その校長の采配で上手く回っていくのか疑問がある。

井出教育長 カリキュラムは自由に組めるので、中学卒業まで9年間に組み込んでいく。文科省の指導要領に沿って行うことに変わりはない中で行うので心配いらない。

保護者矢野氏 9年間の事情を知った教員がいるのではなく、小中そのままの組織で行き辺りばったりで行われると理解している。県は小中一貫に配慮した人員配置にいつなるのか。

井出教育長 小中一貫校と義務教育学校を混同している。小中一貫型は、別組織である中で乗り入れ授業や連携を図るもの。現状は県採用教員でできないので独自採用教員や県費採用講師で行っているのが実情。義務教育学校は小中両方の免許取得者を揃えるので自由に乗り入れ等ができる。小中一貫の導入事例や検討事例が多くなってきているので、県には小中の免許制度の改正を国に働きかけるようお願いしている。

新海一禎 委員 佐久穂は、中学校の先生が乗り入れ授業をしていて、今年度は算数、理科、体育を教えている。なぜ今年度かというと、県の配置教員の免許が分かってから教科を決める。小4ギャップ、4年時に教科内容が難しくなるので乗り入れが大事。全ての教科が乗り入れできるわけではない。

保護者佐々木氏 中学校は村のハザードマップの危険地域に入っている。こんな危険な所が候補地になることがすごく疑問がある。

井出教育長 ここから海尻地区まで沢は危険区域になっていて、危険性があるのは事実。最終的にはそれも判断材料となるだろう。建設検討委員会に伝える。

保護者佐々木氏 中学校はいい場所と思えない。一番は安全な場所で学習ができること。子どもはどんな場所にも適応力があって可能性がある。教育方針やどういう学校にしたいか、よく検討いただきたい。

江川尚友 委員 ようやく保護者説明会が行われた。村の一大事なので、保護者以外にも子どものいない方、経験のあるおじいさん、おばあさん、皆さんで盛り上がってほしい。

いと強く思っている。自分の発言が子ども達のためになっているか疑問だが、せつかくの委員なのでこれからも責任をもって発言していきたい。村の多くの方に参加いただけるようになっていけたらいい。

保護者高見澤氏 どこにできるにしても、バスの運行をどのようにするか真剣に考えられたい。これから運転手が確保できるのか、やりがいを持って運転していただける方にしたい。周遊とか参観日とかに親も乗れるスクールバスになったらありがたい。

井出教育長 建設場所が決まれば今後部会で検討していく予定である。佐久穂町では毎年問題になるのは、スクールバスの運行のことだそう。十分検討していきたい。

一般福田氏 小中一貫教育校を建設すると決まったことだとは知らなかった。保護者でないので耳に入らない。これから子どもを持つかもしれないので、参加して意見を出せる場が欲しい。

井出教育長 住民へは広報でお知らせしているし、村のホームページで開示している。住民への説明会は、学校建設の方向が一定程度できたところで開かせていただきたい。

板山 委員 情報を知らない。住民との温度差がある。早期に住民の意見をくみ取っていた方がいい。どの親も大変だと思うので、意見を聞いて欲しい。

渡邊会長 なるべく説明の機会を増やしていきたい。

保護者矢野氏 山を開いて新しいものを建てるのに大反対している。国の補助があっても国に国民がお金を出している。賢い使い方でないやり方で、しかもどういいう教育をするのかもわからない。全国の小学校の中で一番標高が高い南小。中学校の所では15番になってしまう。2万校の中での1番を誇りに持って、造成していくのが一番賢いやり方だ。検討を願う。

井出教育長 お金がかかるのは事実だが、まずは子どものためにいい学校を作ることを第一に考えましょうということで進んでいる。財政的な視点では役場が考えているので、まず建設場所が決まって、いくらかかるとなった時に村が判断する時が来る。佐久穂町でも場所が変更になった経緯がある。委員会で出たことが村の事情で変わることも否定できない。委員会で建設地が決まるわけではないと理解されたい。

保護者佐々木氏 昨年、学校づくり委員会で委員として勉強した。3つの施設形態がある中で、分離型はメリットがないと選択肢から外されて検討されていない。分離型を検討すべきと意見したい。理由は、全国の事例の78%は分離型である。まずその精査をすべきと、子供の成長過程では、幼少期は活動範囲が狭く年齢ごとに範囲が広がるもの。9年間を考えると、低学年児は今の通学区が望ましい。よほどの特色ある教育でなければバスで通わせるのは心配で抵抗がある。北小区も南小になれば心配だろう。であるから片方は小中の本校として、片方は低学年児の分校として残されたい。その形での施設分離型を望む。平沢からは距離があるし、元々5つの村からできている村なので地域の歴史、文化が違う。低学年児はそれぞれで学び、高学年から全体で学習することを提案したい。

事務局井出次長 全国事例で施設分離型が78%あるのは、ほとんどが都市部のもの。都市部で行う小中一貫と山間地の小規模校とは全く違うもので、都市部の中学校区単位で実施している事例である。小規模校での分離型は移動に時間がかかるとかがあり、分けて考えられたい。佐々木さんの意見は理解できるが、佐々木さん以外のだれからも同じ意見として出てこないのも事実だと承知されたい。

保護者佐々木氏 教科担任制の必要性が出るのも高学年からのことだと思う。教育の内容を抜きにして建設地を決めるのも早まっている。教育内容を煮詰めてから決めるべきと思う。

渡邊会長 児童生徒数が減ってくる面も考慮したり、英語も小学校の教科になる。県では小中の免許取得を勧めているようなので意見を参考にやっていきたい。

板山 委員 分校というのも参考になるいい案と思う。平沢分校がいい思い出で好きである。

井出教育長 分校を作るには特別な理由が必要である。学校の適正規模からも、佐久市臼田では4つの小学校の統合を検討している。今、分校の考えは一切ない。それでは補助金もつかないし、村の事情は考慮されないだろう。

松山 委員 そういう意見を聞いたことがないというのは、住民説明会をしないからだ。皆さんの意見を聞かないから意見が出ない。建ててから住民の意見を聞いても遅い。前回、教育長は、建設地を決めてから住民説明会をしようと言ったが、それを平沢で言ったら、それはおかしいという署名をいただいてきた。平沢で100名ほどの保護者でない方から多く署名をいただいて、今日は届けに来た。

渡邊会長 他に意見がないので、次に6時半から開催することを告げ、閉会としたい。

◎閉会の宣告

林副会長 開会を宣言する

閉会 午後3時20分